

1 部

学習サポート

3 / 31 ~ 5 / 7 の各種申込締切一覧

通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着をお願いいたします。

(注) 備考欄の『レポート課題集』参照ページについては、『試験・スクーリング 情報ブック2012』1部p. 25~42に記載の変更内容も併せてご確認ください。

■全学生に関連するもの

	提出物	締切日
5月科目修了試験	レポート・ 申込みハガキ	4月19日(木)
春期スクーリングⅢ (4/28~5/6)	申込みハガキ	4月10日(火)
春期スクーリングⅣ (5/18~6/10)	申込みハガキ	4月26日(木)
オンデマンド・スクーリング	申込みメール	4月4日(水)正午 ほかp. 44表参照
特講・社会福祉学1・5・6 特講・福祉心理学5・14 履修登録・スクーリング申込み	履修登録用紙	5月7日(月)
単位互換協定にもとづく認定単位スクーリング資料請求締切	p. 36~41参照	4月16日(月)
単位互換協定にもとづく認定単位スクーリング出願締切		4月20日(金)

	受付日
レポート (レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)	4月3日(火) 4月12日(木) 4月19日(木) 5月1日(火)

※「スクーリング受講者専用別レポート」は、受講後1カ月以内

■社会福祉援助技術演習・実習関連

	締 切 日	備 考
★社会福祉援助技術演習B・◆演習Ⅱ 1 単位めレポート (スクーリング事前レポート)	5 / 19・20受講希望者 → 4 月15日(日)	(注) 『レポート 課題集 2011(3・4 年次)』 「★演習 B」 p. 119～125 「◆演習Ⅱ」 p. 54～58
◆社会福祉援助技術現場実習指導(事前) スクーリング受講申込み	4・5 月受講希望者 → 4 月2 日(月)	(注) 『レポート 課題集 2011(3・4 年次)』 ★指導 B p. 138～142 ★演習 C p. 126～133 ◆指導 p. 59～64
★社会福祉援助技術実習指導 B - 1・ ★社会福祉援助技術演習 C - 1 スクーリング受講申込み	4 月2 日(月)	
★社会福祉援助技術実習指導 B - 2 スクーリング受講申込み		
★社会福祉援助技術演習C 1 単位めレポート (スクーリング事前課題)	4・5 月受講希望者 → 4 月9 日(月)	
★社会福祉援助技術演習C スクーリング受講申込み (実習免除者・来年度以降科目 等履修生での実習受講希望者)	4 月2 日(月)	本冊子 p. 68 ※申込みは、本冊 子巻末の申込用 紙を使用してく ださい。

	締 切 日	備 考
★社会福祉援助技術実習指導 B 課題 1 ◆社会福祉援助技術現場実習指導 課題 1-① (実習計画案)	4 / 29受講希望者 → 4 月 9 日(月) 5 / 3 受講希望者 → 4 月 12 日(木) 5 / 12受講希望者 → 4 月 20 日(金) 5 / 19受講希望者 → 4 月 27 日(金) 5 / 26受講希望者 → 5 月 2 日(水)	(注) 『レポート課題集 2011(3・4年次)』 ★指導 B p. 138～142 ★演習 C p. 126～133 ◆指導 p. 59～64

■精神保健福祉援助演習・実習関連

	締 切 日	備 考
精神保健福祉援助演習 1 単位めレポート (スクーリング事前課題)	6～7 月受講希望者 → 4 月 16 日(月)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 75～82 ※本冊子 p. 69～ 70も参照
精神保健福祉援助実習(事前指導) スクーリング受講申込み	5～7 月受講希望者 → 4 月 2 日(月)	『レポート課題集 2010(3・4年次)』 p. 83～97 ※本冊子 p. 71も 参照
精神保健福祉援助実習(事後指導) スクーリング受講申込み	7～9 月受講希望者 → 4 月 9 日(月)	
精神保健福祉援助実習 課題 1 (事前課題：実習計画案)	5 / 27受講希望者 → 4 月 25 日(水)	

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

	締 切 日	備 考
教育実習の事前事後指導 1 単位めレポート (実習事前課題)	3 / 24・25受講者 → 4 月14日(土)	(注) 『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 203～206
障害者(児)教育実習の事前・事後指導 1 単位めレポート (実習事前課題)	3 / 24・25受講者 → 4 月10日(火) ※ 5 月実習開始者 は 4 月3日(火)	(注) 『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 283～288
教育実習・障害者(児)教育実習 誓約書・健康診断書(・個人調 査票のコピー)提出	5 月実習開始者 → 4 月6日(金) 6 月実習開始者 → 4 月15日(日)	※事前指導受講済 者のみ対象

■その他

●卒業研究申込締切(3月卒業希望者) 4月5日(木)

●休学届提出期限(4月生) 3月31日(土)

技術と技能 言葉を覚えて終わりにしない

教員 MESSAGE

准教授 関川 伸哉

技術とは、科学的根拠に基づき知識に裏付けされたものです。したがって、そこにはルール、原則、理論、方法、手段が存在し、他者に表現（説明）可能な“技”であると言えます。一方、技能は、実践的、实际的ではあるが、カンや経験に依存した人間個人に宿るもので、表現（説明）困難な曖昧なものであると言えます。私は、以前本誌『With』に専門職は、長年の経験と勘のみに依存する「技能」ではなく、科学性を根拠とした「技術」であることが重要であることと、根拠に裏づけされた医療の提供として「EBM（Evidence Based Medicine）」について記載させていただきました。再び、同様の話題を提示させて頂いた理由は、最近の私の研究及び臨床業務を通して、“やはりこの問題は重要なのでは？”と感じているからです。

皆様もご存じの様に、福祉現場は多職種の方々との連携（多職種連携・チームアプローチ）が不可欠であり、最近では医療職との協力が欠かせません。私も複数の専門職の方々と共に、高齢者施設を中心に臨床業務を行っています。ケースカンファレンスを行い、各専門職が個々の視点（専門分野）から情報を提示し意見を述べ合います。その際、福祉職の方々から示される意見を聴いて、何時も同様の事を感じます。1つ目は、説明内容がとても抽象的である。2つ目は、理由が曖昧である。そして3つ目は、原因を探ることなく結果を示す点です。

例えば、歩行困難になり、座っている姿勢も崩れ、食欲がなくなってきた利用者に対して、何故、“歩けないのか？座れないのか？”を質問すると、“歩けない、座れない人です”との回答が返ってきます。状況を多角的に評価することなく、問題が個人に起因すると結論付けるのは、と

でも危険なことだと感じます。本当は、姿勢も保持できて、更には短い距離であれば歩けるかもしれません。

それでは何故、この様な3つの課題が生まれてくるのでしょうか？恐らく、福祉分野では、まだまだ技術教育が、定着していないことに原因があると感じます。理由を説明されることなく、“こうする！”“そうすればよい！”といった技能教育が中心となり、“何故、そうなのか？”といった教育に重要な疑問を感じる機会が低減している点にあると言えます。現に、福祉職の多くが、何か困ることがあると“どうすればよいでしょうか？”と聞いてきます。“こうすればよい！”と教えてもらっても進展はありません。“どうしてでしょうか？”と理由を聞くことがとても大切です。大学で学ぶ際には、方法論や単なる事例を知るのではなく、“何故、その様にするのか？何故、その方法が良いのか？何故、…？”と根拠を追及することがとても重要な学びだと感じます。

その為には、言葉を覚えて終りにしないことが大切です。難しい専門用語や人の名前を沢山憶えても現場で役立た（使用でき）なければ、意味がありません。福祉とは実践の学問です。学んだ知識を活かして、臨床現場の中で役立てることが大切です。言葉を覚えたら、次にその言葉の持つ意味（仕組み）を学びます。仕組みが分かれば、現場で役立てるための動く準備（練習）ができます。動く準備を続ければ、何時しか現場で動ける様になるはずです。皆さんの学びが、技術に繋がり臨床現場で役立つものになることを願ってします。尚、通信教育を無事に終えて、卒業を迎える方々もより専門性の高い“技術”習得に向けて今後も精進して下さい。書面を借りて、お祝いの言葉とさせていただきます。

卒業者アンケートより(1)

3月卒業者にお伺いしました。

p. 20に「卒業者アンケートより(2)」を掲載しております。

●社会福祉学科 Aさん

- ・震災後やる気が起きず、予定が遅れて卒業できないかと思ったが、主人や職場の上司など、周囲の理解が得られたおかげもあり、後半ものすごい勢いでレポートを書いた。

●社会福祉学科 Bさん

- ・レポートがうまくまとめられず、進まなかったが、再提出でもいいからとにかく書いて出してみようと思うようにした。

●社会福祉学科 Cさん

- ・仕事と学業を両立させるペースを修得するのに苦労したが、仕事をしながらもレポート課題において関連のあることは調べるようにしていた。

●社会福祉学科 Dさん

- ・自身が福祉の現場に携わっていないため、内容の濃いレポートが書けずに悩んでいたが、福祉職についている友人の話を聞いたり、新聞を読むことで見識を深めた。

●社会福祉学科 Eさん

- ・資格取得を目指していたが、実習のために休暇を取得することが難しかった。そこで目標を卒業に切り替え学習に取り組んだ。資格取得は叶わなかったが、体験学習などを通じて福祉の現場を体験できたのはいい経験となった。

●福祉心理学科 Fさん

- ・幼い子どもが2人いたので、仕事と育児と学習の両立はかなり厳しかった。しかし、学習計画をしっかりとてると自分がすべきことがわかりやすくなり、育児休業後、夜勤明けなど子どもが家にいない時をうまく使えば学習できるんだとわかった。